

令和4年度 下関商業高等学校 学校評価書 評価者(久保田 力哉)

1 学校教育目標
~スローガン「夢を志へ」~
教育目標... ①社会人基礎力の育成 ②確かな学力の育成 ③キャリア教育の推進 ④部活動、学校行事等の充実 ⑤地域連携教育の推進 ⑥学校安全の質と水準の向上

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)
総務 他の方針と連携して学校行事の円滑な運営を図ってきたい。学校の的確な情報を迅速に発信できるようにしたい。
教務 新教育課程移行に伴い、新たな学習評価の基準の作成や、運用方法の検討を行う。業務内容の効率化を図り、教員の負担の軽減と理解を深める。

3 本年度重点を置いてめざす成果・特色、取り組むべき課題
「未来に富める人づくり」のための4つの柱... ①心をつなぐ(3年間を見通したキャリア教育の推進) ②地域をつなぐ(保護者・地域との連携強化と積極的な情報発信) ③学びをつなぐ(確かな学力・社会人基礎力の育成と資格取得の奨励) ④心をつなぐ(生徒一人ひとりに寄り添う教育相談体制の充実)

4 自己評価
5 学校関係者評価
評価領域 重点目標 具体的方策(教育活動) 評価基準 資料 評価 重点目標の達成状況の診断・分析 総合評価 学校関係者からの意見・要望等 評価
総務 情報発信の充実 ①インターネットを使った情報発信 ②学校案内による学校紹介...

第2学年	キャリア教育を充実し、進路についての目標を確立する	①授業やLHR等を通して将来のビジョンを具体的に考える ②家庭と密に連絡を取り情報提供に努める	学校評価アンケート（生徒）の項目で「あなたは、自らの進路について、はっきりとした目標をもち学校生活を送っていると思う。」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。	生徒	79.4%	・「総合的な探究の時間」や外部業者の「進路説明会」、卒業生講話などを通して将来についてインプット、アウトプットする機会を与えてきた。しかし、中々自分の進路について明確に決めることができない生徒もいる状態である。悩んでいる生徒は個別面談をするなどこれら3学年に向けて対応していきたい。	B	・全員の進路が決定していることは、大変すばらしい。 ・キャリア教育の点で生徒の評価が低いのが気になる。その他の項目では評価が高いのだが… ・保護者はコロナ禍ということでもあまり学校に行き機会が少ない中としては、評価点では満足ではないだろうか。 ・学年に応じて特色のある目標設定を評価する。 ・第2学年において、外部（社会とのつながり）を積極的に行うことや、社会に出るイメージを、そして家庭の重要性などの教育は、この世代だからこそ必要と思う。 ・第3学年においては、学内だけではイメージを持っていない情報の多様化により、専門的な当事者情報の交換は必要と思う。	B
第3学年	社会人基礎力を習得させ、自ら主体的に考え行動できる力を養成する	①自己実現に向けて社会性や主体性を育めるよう学校生活をサポートする ②保護者と密に連絡を取り、定期的な進路情報を発信する	学校評価アンケート（生徒）の項目で「本校に入学して、言葉遣い、マナーなど社会人として必要な資質が向上していると思う」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。	生徒	95.6%	・全員の進路が決定している。さまざまな場面を通して、挨拶やビジネスマナーを身につけて実践できるようにしてきた。卒業後も生かせるように。	B	・全員の進路が決定している。さまざまな場面を通して、挨拶やビジネスマナーを身につけて実践できるようにしてきた。卒業後も生かせるように。	B
			学校評価アンケート（保護者）の項目で「本校は家庭との連携がうまくいっていると思う」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。	保護者	82.4%	・学年ごとの生徒の状況に応じて適切に対処できている。専門学校等の総合型選抜試験などは夏季休業前に試験が実施されるなど時期が早まっていることもあり、進路情報などはもう少しこまめに連携を取る必要があると考える。	B		A
商業	1学年…ビジネスの基礎とビジネスマナーの育成	簿記・ビジネス基礎・情報処理の基本3教科の知識・理解を定着させるために補習と課外を実施	日商簿記3級、全商情報処理2級の取得	資料		・授業担当者において、授業改善、検定課外を実施し、全商情報処理検定では92.3%の合格率を挙げた。	B	・基礎的なスキルの習得への成果として評価する。より効果が高まるように役割分担し、目標達成を目指してほしい。	A
商業	2学年…上級資格取得への取組	全商検定1級取得のために補習・課外を実施	全商簿記実務検定1級、全商ビジネス計算実務検定1級、全商ビジネス文書実務検定1級の取得	資料		・2学年…1学年同様、個別指導や検定課外を実施し、全商簿記検定では1級に46名合格した。	B	・商業科として生徒の将来に向け有効な取組を継続し、成果を上げていくことを評価する。	A
商業	3学年…社会人基礎力の育成、全商1級3種目の取得	「総合実践」でビジネスマナー教育を実践、商業経済検定1級の取得で全商検定1級3種目取得をめざす。	全商検定1級3種目以上合格者数30名	資料		・3学年…全商検定1級3種目以上合格者数29名を達成した。総合実践ではビジネスマナー、チャレンジショップでは販売実習で実践的な体験活動を実施した。	B	・より効果が高まるように役割分担し、目標達成を目指してほしい。 ・前年度に比べて、チャレンジショップなどの見直しをし、体験値・経験値を上げる必要がある。	A
情報処理	2学年…意欲的に資格取得に取り組む	全商情報処理検定1級（ビジネス情報部門、プログラミング部門）の取得を目指す。	情報に関する応用的な内容の理解と、全商情報処理検定1級（ビジネス情報部門、プログラミング部門）の取得。	資料		・2学年…全商簿記検定1級63%、全商情報処理検定1級ビジネス情報部門70%、プログラミング部門50%の合格率を達成した。	B	・情報処理科として生徒の将来に向け有効な取組を継続し、成果を上げていくことを評価する。	A
情報処理	3学年…情報に関する専門性を高める	課題研究、選択科目を通して、高いレベルの知識・技術を習得する。	全商検定1級3種目以上合格者数20名 高度資格取得（日商簿記2級、ITパスポート）	資料		・3学年…全商検定1級3種目以上合格者が17名、日商簿記検定2級合格者10名、ITパスポート合格者7名を達成した。	B	・基礎から応用へより専門性を高めるため、適切な指導ができるように教員も連携して努力してほしい。 ・対前年比の取組が欲しい。	A
特色ある教育活動の推進	実践的な取組 高度な学習の展開	①持続可能なコミュニティ・スクールの取組の展開 ②チャレンジショップの更なる発展 ③課題研究の取組の充実 ④高度資格取得に向けた取組の充実	学校評価アンケート（生徒・保護者）の項目で「本校は特色ある教育活動を行っていると思う」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。	生徒	95.8%	・商業研究部では、地域の企業や大学と連携し、節電復活のプロジェクトに取り組んだ。	A	・本市及び本校の特色を生かした取組に十分成果を上げており評価する。来年度に向けて新たな取組の検討にも期待する。	A
			日商簿記1ITパスポート等の高度資格取得合格者数の割合及び合格者数が前年度比 A：割合、数ともに増加した。 B：割合、数のいずれかが増加した。 C：変わらなかった。 D：割合、数ともに減少した。	保護者	92.1%	・課題研究「チャレンジショップ」では、12月の販売活動は例年以上に盛況で、全体の売上については前年比109.9%であった。	A	・より効果が高まるように役割分担し、目標達成を目指してほしい。 ・前年度に比べて、チャレンジショップなどの見直しをし、体験値・経験値を上げる必要がある。	A
業務改善	働き方改革に係る「当事者意識」の醸成と、協働の業務体制を整える	自分の「多忙化」の現状を客観的に把握するとともに、各業務の目的を共有し協働して教育活動を行う業務体制を整える。	学校評価アンケート（教員）の項目で「在校等時間記録表に基づきセルフマネジメントを推進している」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。	教員	58.6%	・業務時間記録表の提出率は昨年度同様100%であり、超過勤務時間については昨年比97.5%で、やや削減されてきている。	B	・「風土化した業務は新たな目で見直すことで業務改善できることがあるため、根気強く業務改善に取り組んでほしい。	B
業務改善	働き方改革に係る具体的な行動	業務時間削減に向けて主体的に取り組み、心身ともに良好に業務を進めることができる職場づくりを行う。	学校評価アンケート（教員）の項目で「長期休業中の「時差出勤」等の活用を推進し、業務時間短縮に努めている」が A：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。	教員	64.3%	・アンケート結果が低く、今後も継続してセルフマネジメントを推進していく必要がある。	B	・各教員はコロナ感染防止対応で従来と違った対応を求められて、通常業務に加え新たな業務も増えたのではないだろうか。医療機関では医師、看護師等の働き方改革を推進するための実施計画を策定し、時間外や休暇取得率について毎年度実績の報告を求められている。特に時間外は労基署への報告もある。いつまで何を減らすか、項目を絞って実施計画を作成してはどうだろうか。 ・昨年度に比べて両方とも評価が下がっている。業務改善は必要なことだと思う。思いきった改善が求められる。	B

6 学校評価総括（取組の成果と課題）										
【総務】成果は上記の「重点目標の達成状況の診断・分析」のとおりである。保護者アンケートの質問内容の改善をする必要がある。										
【教務】目標については概ね向上できていると思われる。今年度は新課程移行に伴う科目や教材の変更、また評価の方法が変わったことにより各教員の負担が増加した。またコロナウイルスによる学級閉鎖もあり、対応に追われることになった。対策は検討しているが実際に運用すると問題点が出てきたため、今後はその問題を解決していくことが課題になると考えられる。										
【生徒指導】学校行事については、鹿商交歓会の経験からホームマツに「eスポーツ」を取り入れるなど、新しい試みに積極的にチャレンジできた。アンケート結果からも成果を感じているので、今後も生徒と協議しながら行事運営していきたい。校則の見直しが話題となっている。本校でも生徒総会を経て変えた規則もある。生徒の意見を取り入れることも大切にしていきたいが、実業高校としての在り方も同時に考えていけるように指導を続けていきたい。清掃活動への意識は上がってきているが、各掃除区域の清掃状況をチェックするところまでできていない。今後検討していきたい。情報モラル教育について、外部講師による講義を行い、意識を高めることができた。また、各学期の始業式、終業式の際に、注意喚起を行った。										
【進路指導】就職については12年連続内定率100%を達成することができた。次年度も事業所との情報交換を密に行い、就職先の確保に努めるとともに、地元就職に地域に貢献できる人材の育成に努めたい。進学に関しては本年度からの取り組みであったグループ体制での小論文指導を検証し、指導体制を確立していきたい。また3年間の継続したキャリア教育を推進し、社会的・職業的自立に向けた基礎的・汎用的能力の育成を図りたい。										
【保健体育】毎朝、健康観察・体温入力を行うことで、自身の健康状態を確認し、振り返ることができた。しかし、特定の生徒が入力できていないこともあり、担任や保健体育部と継続して指導しているところである。また、コロナ禍の影響が、今年度も心身の不調を訴える生徒や保健室利用が多かった。今後も継続して、担任や教育相談、SC等と連携し共通理解を図り、組織的に対応していきたい。										
【教育相談・人権教育】生活アンケートや学校安全アンケート等を通して生徒の実態を把握することができた。生徒の意識にも、困ったことがあれば周囲の大人に相談するという意識が大分根付いているように見受けられる。心の問題を抱えた生徒が増えていることを鑑みると、校内の支援体制がより充実することが望まれる。										
【図書】読書、学習の場としてふさわしい環境を維持することに注力した。また、必要な情報に確実にたどり着けるように、コーナーの設置、配架の工夫、そしてカンファレンスを機能的に行った。また、司書の交代に伴い蔵書の整理と配架のモデルチェンジが進んだ。1年生には、各種読書の誘いを意識した授業時の貸し出し、読書ノートの活用、新書版の図書紹介ポップの作成、3年生には、小論文対策の資料の発信に重点を置き活動した。3年生2名が、県の「読書感想文コンクール」において、優秀賞などの各種賞を受賞した。										
【情報】昨年と比べると学習用端末を活用する機会は増えているように感じる。今後の課題として年度更新をUSBを使用する方法からintuneを使用する方法に変更するか否かを検討する必要がある。また、故障機が増えてきているため保険への加入やリカバリ方法について考えていかなければならない。										
【第1学年】基本的な生活習慣が確立している。学校行事には互いに協力し合い、積極的に参加した。コースや科目の選択、インターンシップなど今年度より始まった新たな内容にも意欲的に取り組むことができた。落ち着いた雰囲気、学習に対するモチベーション、凡事徹底等、引き続き持ち続けて次年度ではさらに充実した学校生活を送ってほしい。										
【第2学年】修学旅行や文化祭など大きな行事や様々なイベントなどを通して、仲間と協力し、コミュニケーションを取り、様々なことにチャレンジすることで各自が成長してくれたように感じている。3年生になることで、より多くのことを経験し、悩んで、決断し、自らの意志で行動しないといけないことも増えていくと思われが、しっかりとサポートし、寄り添いながら、挨拶の徹底など指導すべきところはしっかりと指導し、各自が望む進路実現をさせていきたい。										
【第3学年】3年生になっての進路変更もあったが、生徒自身が個々の自己実現に向けた取り組みができている。本校で学んだことは今後に生かしてほしい。										
【商業】定期考査前の個別指導や検定対策課外など、各教員が担当クラスの生徒に対して十分な指導を行った。その結果、1年生の「簿記」で日商簿記検定3級に挑戦することができた。2年生からのコース選択についても概ね計画通り実施できた。										
【情報処理】情報処理科の担任や教科担当者と、生徒一人ひとりの成長が結果として現れた。3年生の進路では、国立大学9名や公務員合格1名も含めて多くの生徒の進路実現を果たした。来年度からは、新3年生に対する3年間の継続的な指導と新1・2年生に対する新教育課程に向けた指導を検討し、より良い学科編成を計画していきたい。今後も、多くの生徒が全商検定1級3種目以上合格や高度資格の取得できるように指導を継続したい。										
【業務改善】多忙化解消のため、校務の電子化や効率化が進んだ。今後は教職員の活用スキルの向上と、情報共有による協働の体制の強化を図りたい。学校業務支援員や部活動指導員等の学校支援人材の活用についても、市教委とも協議しながら検討していきたい。また、引き続き校務の総点検を行い、更なる業務の精選・簡素化を推進する。										
7 次年度への改善策										
【総務】WEBページのさらなる充実を図るとともに、コロナ後の学校行事の在り方を検討したい。										
【教務】引き続き、家庭学習を増やす工夫を考える。また、新教育課程の移行に伴う観点別評価の方法について、引き続き研究や研修を行い、授業の質の向上をめざしたい。										
【生徒指導】学校行事について、今後コロナ禍以前の状態に戻ることが予想される。効率化と、この3年間でやらせてきたこととうまく組み込み、よりよい学校行事にしていきたい。規範意識を高めるために、「ルールを守る」といった意識だけでなく、「そのルールの必要性」を理解させることを意識した指導が展開できればと考えている。清掃活動については、毎日の清掃状況のチェックや校外清掃活動にチャレンジしてみたい。情報モラル教育については、トラブルの未然防止の観点だけでなく、望ましい利用の仕方についても触れていきたい。										
【進路指導】就職に関しては地元企業との連携を図り、地域の活性化を担う人材を送り出せるよう努めたい。進学に関しては多様な進学先に対応できるように情報収集と指導体制を確立していきたい。また、生徒や保護者に対して進路情報の提供も積極的にいきたい。										
【保健体育】健康観察や治療動向については、担任等と連携し継続して徹底させていきたい。また、心身の不調を訴える生徒や保健室利用も多いため、担任や教育相談、SC等と連携し共通理解を図り、組織的に対応していきたい。										
【教育相談・人権教育】生徒や保護者が安心して相談できる体制作りと、人権教育、心の教育、教職員研修の更なる充実を図りたい。										
【図書】読書・学習・情報の各センターとしてのそれぞれの機能を、時代に合った形でより洗練させていくとともに、生徒が、自分と向き合ったり、思索にふけったり、また、何かの時に「心のオアシス」として気軽に立ち寄ってくれる、そんな万古館でありたいと考える。										
【情報】業者と連携をしてより良い環境整備をしていかなければならない。また、教員の業務改善ができるよう校内研修なども実施したい。										
【第1学年】より充実した学校生活が送れるよう、学習指導や進路指導をサポートしたい。また、自尊心を高め、他者尊重の温かい心を育み、よりよい生き方を模索するさまざまな機会を提供して、心の成長に寄り添いたい。										
【第2学年】進路を決定する最終学年として、より生徒・保護者と意思疎通をしっかりと図り、各生徒たちの夢が叶えるようサポートしていきたい。										
【第3学年】新型コロナウイルスが5類への移行となるため、学校行事等が以前の状態に戻ることが考えられる。高校生活で経験していないことも増えると思われるので、適切なアドバイス充実した学校生活が送れるようにしたい。全員の希望に沿った進路が実現できるように体制を整えていく。										
【商業】新教育課程の完成に向けて2年目を滞りなく実行するために、それぞれの教員が役割を分担して組織的に対応していきたい。										
【情報処理】資格取得や進路実現に向けて適切な指導が行えるよう、教員間の連携と生徒の意欲向上を図る。										
【業務改善】引き続き校務の総点検を行い、更なる校務の電子化や効率化をより一層進めていく。市教委とも協議しながら、学校業務支援員や部活動指導員等の学校支援人材の活用についても検討していきたい。										